

【セミナー報告】

第30回被服衛生学セミナー報告

災害と被服衛生学

小柴 朋子

文化学園大学

第30回被服衛生学部会セミナーは、平成23年8月29日（月）～31日（水）、長野県飯山市の文化北竜館にて、「災害と被服衛生学」を総合テーマとして開催されました。30回目の記念セミナーとして、2泊3日で、特別講演5件、研究事例報告9件、総合討論、座談会、30周年記念シンポジウム、と盛りだくさんな内容でしたが、参加者は正会員36名、学生5名、企業展示4社で、東日本大震災後ということもあり、参加人数はやや少なめでした。しかし、お天気にも恵まれ、ご参加の先生方には、澄んだ空気のもとで、活発に討議に参加いただきました。

総合テーマの「災害と被服衛生学」は、この年の3月に起きた未曾有の大災害、東日本大震災後のセミナーとして、被服衛生学分野の研究者として考えるべきことについて探ろうと急遽変更して企画されました。「災害と被服衛生学」のテーマに沿って、特別講演の講師方からは、防護服着用による生体負荷、被災地で実際に使用されている防護服、震災直後からの被災地の状況について、貴重な講演をいただきました。また、飯山から近い新潟の塩沢で伝統工芸士として無形文化財の越後上布を守る中島清志氏からは、繊細で大変に手のかかる工程について、ご自身の作品や材料をお示しいただきながらお話いただきました。

それらの講演を受けて、被服衛生学総合討論「災害と被服衛生学」では、東北地区の先生方からいただいたFAXを話題提供として、討論の口火が切られました。震災発生直後の寒冷下での下着や靴等の問題、被災地での暑熱環境下での作業員の防護服の問題、長野県栄村での支援活動を通しての要望、災害に備えた被服での備蓄等について、講師の先生方を交えて、討論が行われました。まだ渦中にある被災状況を、今後の被服衛生学の研

究活動にどういかしていくべきかについて、いくつか提案されました。総合テーマ「災害と被服衛生学」に対しては、部会として、今後取り組みを企画していくことが提案されました。

30周年記念シンポジウムとして企画された「被服衛生学の未来」では、各方面の先生方から話題提供していただきました。教育や企業や公的機関として、ご自身の研究領域について説明いただき、被服衛生学が果たしていくべき役割について、教育現場や企業や社会に向けて、研究成果を公開していくことの必要性について討議されました。

合宿のように、参加者全員が北竜館に宿泊して頂いたので、夜の会の語りいとして、名誉会員の先生方から、今までの被服衛生学とご自身との長い関わりを通じての我々後続く者たちへの提言をいただき、これも、記念の会としてふさわしいプログラムとなりました。

エクスカージョンとして、飯山市の高橋まゆみ人形館の見学や野沢温泉の外湯入浴を楽しんだりしていただいたことも、日程がゆっくりとした2泊3日だからこそできたものと思われま

す。ご参加いただきました先生方、準備に尽力くださった文化学園大学機能デザイン学研究室の方々にも心から感謝いたします。ありがとうございました。



座談会 活発な質疑

【プログラム】

8月29日(月)

14:30~15:30 役員会 文化北竜館第2ゼミ室

16:10~17:00 特別講演1

栃原裕氏 (九州大学大学院 教授)

「防護服着用時の暑熱負担とその評価法」

17:10~18:00 特別講演2

斉藤文明氏 (アゼアス(株))

「災害現場で必要とされる防塵服についてー福島第1原発、鳥インフルエンザ、アスベスト対策等で使用された防護服ー」

18:00~18:30 臨時総会

19:30~21:00 座談会「私と被服衛生学」

話題提供: 鎌田佳伸氏 (元実践女子大学)、田口秀子氏 (元秋田大学)、杉本弘子氏 (元京都教育大学)

8月30日(火)

9:00~10:15

特別講演3

中島清志氏
(伝統工芸士)

「ユネスコ無形文化遺産登録重要無形文化財技術指定越後上布・小千谷縮 越後上布ができるまで」



中島清志氏と中島律子氏

10:30~11:00 特別講演4

森川智佳子氏 (長野県栄村住民福祉課保健師)

「長野県北部地震における支援活動の実際ー保健師としての経験からー」

11:00~12:00 被服衛生学総合討論

テーマ「災害と被服衛生学」

13:00~15:00

被服衛生学部会30周年記念シンポジウム

テーマ「被服衛生学の未来を語る」

コーディネータ 諸岡晴美氏 (京都女子大学)

シンポジスト 今村律子氏 (和歌山大学)、

薩本弥生氏 (横浜国立大学)、田村照子氏 (文

化学園大学)、石丸園子氏 (東洋紡績)、山本

貴則氏 (大阪府立産業技術総合研究所)

15:00~18:00 エクスカーション

高橋まゆみ人形館見学、北竜湖周辺散策

18:30~20:30 懇親会

8月31日(水)

9:00~10:00 特別講演5

加藤真介氏 (横浜薬科大学)

「放射線の基礎とその人体影響」

10:00~11:30 研究事例報告

「私の研究紹介」 9件

1. 「ナースウェアの運動機能性、温熱的快適性、細菌透過性に関する研究」

内田幸子 (高崎健康福祉大学)、田村照子、小柴朋子、有泉知英子 (文化学園大学)、森本美智子 (兵庫県立大学)、田辺文憲 (山梨大学)

2. 「ユニバーサルデザインビジネス啓蒙のための教育プログラムの開発」

丸田直美 (共立女子大学)、加藤登志子 (文化ファッション大学院大学)、菊池直子 (岩手県立大学盛岡短期大学部)、斉藤秀子 (山梨県立大学)

3. 「車いす使用者のためのリフォームジーンズの着心地についてー衣服圧と着用感からの検討ー」

平岩暁子、平林由果、飯田信子、青山喜久子 (金城学院大学)

4. 「腹部と大腿部への圧迫と知的作業能」

深沢太香子 (京都教育大学)、藤井亜由美 (福岡女子大学)、西島美加 (福岡県立香椎高等学校)

5. 「クールビズオフィスにおける執務者の着衣量調査」

西原直枝、田辺新一 (早稲田大学)

6. 「衣服による摩擦が皮膚表面微細三次元構造に及ぼす影響ー走査型共焦点レーザー顕微鏡を用いてー」

松井有子、田村照子 (文化学園大学大学院)

7. 「肌着用編布の風合い評価と熱・水分移動特性」

井上真理、黄 暁明 (神戸大学大学院)、池島宏亮、神家春奈 (神戸大学)

8. 「衣服の水分率と湿潤感覚の関係」

前田亜紀子、岩瀬静香、内田穂奈美 (長野県短期大学)

9. 「ヒール高の相違が歩行に及ぼす動態力学的影響」

川上智恵 (文化学園大学大学院)、有泉知英子、永井伸夫 (文化学園大学)、田村照子 (文化学園大学大学院)

30周年記念事業実行委員会

委員長 諸岡晴美（京都女子大学）

副委員長 菅井清美（新潟県立大学）

三野たまき（信州大学）

顧問 田村照子（文化学園大学）

第30回被服衛生学部会セミナー実行委員会

（関東地区担当）

実行委員長 小柴朋子（文化学園大学）

実行委員 有泉知英子（文化学園大学）、内田

幸子（高崎健康福祉大学）、斉藤秀子（山

梨県立大学）、薩本弥生（横浜国立大学）、

佐藤真理子（文化学園大学）、嶋根歌子（和洋女子大学）、須田理恵（文化学園大学）、西原直枝（早稲田大学）、丸田直美（共立女子大学）

＜連絡先＞

〒151-8523 渋谷区代々木 3-22-1

文化学園大学機能デザイン学研究室 小柴朋子

電話・FAX : 03-3299-2336

eメール: koshiba@bunka.ac.jp



二日目午後 被服衛生学部会 30周年記念シンポジウム「被服衛生学の未来を語る」



講演展示 手前は越後上布ができるまでの過程について（中田屋織物 中島清志氏）、後ろは防護服のあれこれ（アゼアス 斉藤文明氏）



セミナー会場手前の飯山市北竜湖を背景にして

【セミナー報告】

第 31 回被服衛生学セミナー報告

被服衛生学からみた身近な科学ー「におい」「香り」、ヒトの事情、ものの事情ー

斉藤秀子¹⁾、加藤三貴²⁾

1) 山梨県立大学 人間福祉学部 2) 神奈川県産業技術センター

1. はじめに

日本家政学会被服衛生学部会では、健康で快適かつ安全な衣生活の向上に貢献することを目的とした活動が行われており、会員相互の研修の場として、研究手法や関連の見識を深める機会として、年に一度、セミナーを開催しています。

平成 24 年度 (2012 年度) の第 31 回被服衛生学セミナーの開催は、東北・北海道地区と関東地区が担当し、横浜市のシルクセンター国際貿易観光会館において、2012 年 9 月 13 日 (木) ~14 日 (金) に開催されましたので、以下のとおり報告します。

2. 本セミナーのテーマと開催場所

家政学は、総合的な科学であると位置づけられています。平成 24 年度被服衛生学セミナーでは、この点に着目し、特に近年マスコミにも取り上げられている、衣服の「におい」、「香り」をテーマに、ヒトの側面、ものの側面から総合的に学ぶ機会としました。

開催場所は、神奈川県横浜市中区山下町シルクセンター国際貿易観光会館地下 1 階会議室 (収容人数 40 名) としました。本会館には、衣に関する博物館として歴史のあるシルク博物館が併設されており、この見学をスケジュールに組み入れました。また、開催地に関わり横浜のシルクの歴史や産業の変遷についての講演および神奈川県産業技術センターでの繊維製品の品質評価についての講演を一般公開講演として企画しました。

3. セミナーの総合テーマ、構成と内容

1) セミナーの構成

本セミナーでは、第一日目には一般公開講演として開催地に関わる講演 2 件、元シルク博物館館長、および神奈川県産業技術センター所属の本会会員にお願いしました。次に被服衛生学セミナーの参加者を対象に、テーマに関わり「におい」「香り」に関わる製品の業界から 2 名の方に講師をお願いし、さらに、テーマに関わる研究紹介 2 件を

お願いしました。二日目にはシルクセンター国際貿易観光会館内のシルク博物館と併せて横浜開港資料館の見学を行いました。これらセミナーの構成は次の通りです。

<一般公開講演>

「日本の近代化と経済発展を支えた横浜とシルク産業の変遷」 元シルク博物館 坂本堅五氏

「繊維製品の品質評価について」
神奈川県産業技術センター 加藤三貴氏

<講演>

「香りのサイエンス」
高砂香料工業株式会社 山崎定彦氏

「現代の洗濯事情ー洗濯の歴史と「におい」と「香り」への対応ー」 ライオン株式会社 芳賀理佳氏

<研究紹介>

「衣服等から発生する臭気成分の分析とその評価」 文化学園大学 永井伸夫氏

「においは伝えられるかー教育現場での試みー」
聖徳大学 野上遊夏氏

<見学>

シルク博物館見学 (学芸員説明)

<http://www.silkmuseum.or.jp/main/>

横浜開港資料館

<http://www.kaikou.city.yokohama.jp/index.htm>



2) 講演会

坂本堅五氏（元シルク博物館館長）による、日本のシルクの近代化と経済発展を支えた横浜のシルク産業の変遷についての講演では、横浜開港と生糸輸出、その後の生糸産業の変遷、横浜のシルクに関する施設、絹糸産地と横浜港を結ぶ絹の道、日本の蚕糸科学技術についての解説がありました。加藤三貴氏（神奈川県産業技術センター）の繊維製品の品質評価について講演では、一般参加者にもわかりやすく、繊維製品の品質、機能性繊維の評価について解説を頂きました。

山崎定彦氏（高砂香料工業株式会社）には香りのサイエンスに関して、歴史、香料、においの計測法、衣服に付着するにおい等について幅広い内容の講演を頂きました。芳賀理佳氏（ライオン株式会社）には現代の洗濯事情について、洗濯の歴史、「におい」と「香り」への対応と題して、洗剤市場の変化と洗濯事情のトレンド、生活者ニーズを捉えた技術として「におい」や「香り」への取り組みについて講演を頂きました。

研究紹介においては、永井伸夫氏（文化学園大学服装学部）より衣服等から発生する臭気成分の分析と評価について、研究方法（体臭成分の分析、試料及び皮膚における細菌、汚れの検出、官能評価）と結果について紹介がありました。野上遊夏氏（聖徳大学児童学部）より、においは伝えられるかー教育現場での試みーと題して、子どもたちへの臭覚の発達への懸念、「くさい」という語がいじめや仲間はずれでよく用いられているという現状を踏まえ、保育・教育における「感覚」の扱いについて、幼稚園・保育園、小学校、特別支援学校等の事例が紹介されました。

3) 見学会

シルク博物館では、同博物館学芸員に、世界、日本のシルクについて、蚕、繭、糸くりから織物になるまでについて、詳細に説明を頂きました。また、同博物館には世界の民族衣装や日本の着物など、美しいシルクの魅力がその歴史とともに紹介されており、科学・産業・美術などいろいろな視点からシルクについての知見を深めることができました。最後にシルク博物館に隣接する横浜開港記念館の自由見学を行いました。

4. おわりに

本セミナーでは一般公開講演、およびテーマに沿った講演および研究紹介が行われました。参加

者は、第31回被服衛生学セミナーは家政学会会員33名、学生3名、非会員（講演者）3名、計39名でした。一般公開講演は、家政学会会員31名、学生3名、非会員（講演者）3名、一般9名、計46名でした。40名収容の会場で、ほぼ満席の状態です。参加者は熱心に講演を傾聴し、また見学し、本セミナーの当初の目的はほぼ達成されたと推察されます。

本セミナーの運営は、顧問の鎌田佳伸、田村照子、成瀬正春、諸岡晴美各先生方、北海道・東北および関東地区の実行委員、有泉知英子、内田幸子、久慈るみ子、小柴朋子、菊池直子、薩本弥生、佐藤真理子、嶋根歌子、野上遊夏、西原直枝、前田亜紀子、丸田直美、山崎和彦各先生のご尽力によるものです。実行委員会はメール会議により3回開催され、活発な意見が交換されました。また、開催要項について、第1回被服衛生学部会幹事会に提案、ご意見を受けて最終案としました。また、一般公開講演の広報として、シルク博物館でのチラシ配布、タウンニュース記事掲載を行いました。

最後に、本セミナーの実施にあたり、一般公開講演、講演および研究紹介の講師を務めてくださった皆様、ご協力いただいたシルクセンター、シルク博物館の関係者の皆様に感謝申し上げます。



<連絡先>

〒400-0035 甲府市飯田 5-11-1
山梨県立大学人間福祉学部 斉藤秀子
電話・FAX：055-224-5261・055-228-6819
eメール：saito@yamanashi-ken.ac.jp
〒243-0435 神奈川県海老名市下今泉 705-1
神奈川県産業技術センター 加藤三貴
電話・FAX 046-236-1500・046-236-1525
eメール：m-katou@kanagawa-iri.go.jp